

令和 4 年度 連携型中高一貫教育 実施報告

<美濃地区> 郡上市立白鳥中学校・岐阜県立郡上北高等学校

1 連携型中高一貫教育の目標と重点

(1) 連携型中高一貫教育の目標

不撓不屈の郡上人

- ☆ 「なにくそ、おかげさま」の心でやり抜く子
- ☆ 高い志をもち、ひたむきに努力する子

郡上の人々は、古くから「不屈の精神」「感謝の気持ち」を信条にふるさとを切り拓いてきた。この伝統を受け継ぎ、「確かな学力」「共に生きる力」「自立する力」の3つを育むことを通して「新しい未来に向かって、郡上を愛し郡上を支える子」を育てたい。

(2) 連携型中高一貫教育の令和 4 年度の重点

- ・授業における「学びでのつながり」と活動における「貢献でのつながり」のさらなる充実を図るために、単位制普通科 4 コースの特性を踏まえながら、オンラインも含めた授業支援の実施方法や時期・活動の在り方について検討する。
- ・生徒による授業支援の計画・実施を通して、小中高の 1 2 年間を見通した系統的な学びの在り方について模索する。
- ・これまでの活動から深まった中学、高校、地域のかかわりを生かし、地域の人材を生かした進路・キャリア教育の充実を図る。

2 目標達成に向けた具体的な取組における成果と課題

目標	取組	成果と課題
確かな学力の育成	授業交流	<ul style="list-style-type: none">○郡上北高等学校の教員から学ぶことで、高等学校での学びに対する見通しもち、今学ぶべきことの意義を理解し、主体的に学ぶ姿勢につながった。○白鳥中学校の教員から学ぶことで、既習事項との関連やつながりをもとに学ぶことできた。また、生徒個々の実態を理解したうえで、適切な指導援助ができた。○英語・数学の授業では、互いの生徒の学習姿勢や生活態度などを把握することができ、担当教員が中高間での橋渡しの役割を果たすことができた。 <p>▲「夏休み学習会」と「出前講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響から実施できなかった。来年度は実施する予定である。</p> <p>▲高校生による中学生の授業支援について具体化していく。</p>
	授業参観と授業研究会	<ul style="list-style-type: none">○中高教員による授業参観期間を実施した。互いの授業と生徒の様子を参観し合うことを通して、学習活動・指導援助の工夫・評価などの実践的交流を行い、授業の質の向上に資することができた。○互いの研究発表会に教員が参加し、研究内容と成果・課題をもとに、系統的な学びについて研修することができた。○高等学校における観点別評価の実施にあたり、観点別評価の在り方や運用について教科別に中学校と情報交換を行った。 <p>▲郡上市教育研究会が実施する研究会に、これまで高校教員も参加していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により昨年度に引き続き、今年度も参加できなかった。来年度は参加する予定である。</p>

(様式5)

共に生きる力の育成	学校見学会	○中学生対象の夏季学校見学会において、学校紹介にかかわるパネルディスカッション、校舎見学案内、受付、アンケート処理などを、生徒会が主体となって行った。
	部活動交流	○吹奏楽部が合同定期演奏会・野球応援・イベントでの演奏を行った。また女子バレーボール部が合同練習・練習試合を行った。他の部活動でも交流の機会をもととする試みがなされたが、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で見合わせるようになった。 ▲感染症対策に留意しながらも、様々な部活動の連携について工夫する。
	地域交流 (公民館応援隊) (郡上地域学生クラブ) (廃校カフェプロジェクト) (地域ICTクラブ) (家庭クラブ) (食品ロス減らし隊)	○地域のイベントや行事に参加することを通して、地域のために役立っているという自己有用感を育むことができた。 ○生徒が企画した行事の運営に携わることで、充実感や満足感を得ることができた。参加する人数も増えてきた。 ▲新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底していく必要がある。
自立する力の育成	先輩に学ぶ会 (白鳥中学校進路行事)	○進路を実現した先輩からの「生の声」を聴くことで、進路実現・自己実現に向けて大切にすべきものについて考えるよい機会となった。 ○各教室で実施したことにより、中学生と高校生の距離が近く、質問しやすい環境で活発に質疑応答がなされた。 ▲クラス・学年によって積極性に差があったが、今年度の形式で来年度も実施を検討する。
	地域人に学ぶ (デュアルシステム) (めいほうコラボ企画)	○企業が求める人材や社会人に求められる資質について、郡上市内の企業の方から体験活動を通して学ぶことができた。 ○地域住民が中学のキャリア教育に参加することで、地域に貢献する人々の思いを直に学ぶことができた。
	地域に生きる	○地域課題の解決を目指した提案に向けて、生徒が中学校での「郡上学」の学びを生かし、郡上北高等学校の「総合的な探究の時間」に活動を行うことができた。地域課題解決の意識・態度を生徒達がより深める機会になった。 ▲地域との連携をさらに深めるため、人材確保やカリキュラムへの位置付けとその実施方法・時期について整備していく必要がある。